

くつき温泉てんくう 利用者300万人突破 4/11

「くつき温泉てんくう」が、開業12年で利用者300万人を突破しました。見事300万人目となった京都市在住の林さんに、花束や地元特産品などが贈られました。これからも、みんなに愛され利用される施設であってほしいですね。(商工観光課)



セレッソ大阪サッカーフェスティバル 4/27

小学生・中学生を中心に約140人の参加者でにぎわった「セレッソ大阪サッカーフェスティバル」。  
森島寛晃選手からサインや写真撮影など突然のプレゼントに子どもたちの笑顔があふれる1日でした!  
(健康の森梅ノ子運動公園)

キレイに咲きそろったピンクのシバザクラ

安曇川町五番領の道路沿いに、シバザクラの花が一面に咲きました。地元の方がお世話されており、毎年、通行する人の目を楽しませてくれます。

一蹴りに勝利の願いを込めて  
-琵琶湖少年サッカー大会- 5/3~5

今津総合運動公園で開かれた「琵琶湖少年サッカー大会」に、近畿・北陸・中部地方から48チームが集結し、連日熱戦が繰り広げられました。  
将来、この中からJリーグで活躍する選手が誕生するといいいですね。(商工観光課)



子どもMTBスクール 5/3

5月3日~5日にかけて、箱館山でマウンテンバイクの全国大会「JCF箱館山ジャパンシリーズJ1」が繰り広げられました。  
同会場で、子ども向けのマウンテンバイクスクールも開かれました。スクールでは、(株)マルイから寄贈いただいたマウンテンバイクが用意され、参加した子どもたちは、新車の乗り心地を楽しんでいました。  
(政策調整課)

「孝経」石碑建立除幕式 4/20

藤樹先生自らが実践された教え「孝経」の石碑がこのたび藤樹書院に建立し、その除幕式が開かれました。  
(藤樹先生生誕400年祭実行委員会)



**お知らせ**  
これまでご紹介してきたふるさと絵屏風の展覧会を開催します。ぜひ実物をご覧ください。  
▼期間 6月17日(火)~29日(日)  
▼場所 藤樹の里文化芸術会館  
▼語り・下古賀区民有志 画・石黒紀代子氏  
下古賀区所蔵 サイズ・2000×3100mm



(注) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとへの思いやイメージを集約して、絵画によって表現したものである。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

今回紹介する安曇川町下古賀の「絵図屏風(注)」は、昭和初期から30年ごろまでの地域の祭りや行事、生活、風俗などを世代から世代へ引き継ぎたいとの思いから、市の「自治会活動活性化事業」および下古賀区の事業により下古賀里山の会で制作されました。また、聞き取り調査で多くの思い出や風習などが明らかになり、絵屏風に盛り込めたい分は「聞き取り集」としてもまとめられました。  
下古賀は、昭和の大合併前の広瀬村における行政の中心地であり、絵図中央には村役場や駐在所、郵便局、絵図左端には学校など主要な施設が描かれています。また、絵図は右から左に向けて春夏秋冬の移ろいが表され、1年を通じて農作業の流れも知ることが出来ます。田んぼの約半分は水田と呼ばれる湿田で、田舟を使った農作業が行われていました。左下には昭和28年9月25日に地域を襲った、台風13号による水害の様子も描かれており、復旧に3年を要するほど、この地域に大きな被害をもたらしたことが思い出されます。  
集落の中を見渡すと、子どもたちの遊ぶ姿が多く見られます。蛸・セミや魚つかみ、竹馬、コマ回し、まりつきなど、子どもの遊びは外遊びが中心でした。集団で遊ぶことが主で、上級生が下級生の面倒を見たり、子守をしながら遊びがいたため、遊びの伝承や小さい子を世話する習慣が自然に培われてきたものです。今後は、学校の出前授業でも集団で遊ぶことの大切さについて絵図屏風を使って伝えるほか、生きがいデイサービスや老人会・子ども会でも活用していきたいと関係者は話しておられます。

シリーズ  
さと  
環の郷  
その二十九  
えびょうぶ  
絵屏風のふるさと巡り  
下古賀  
里山絵図屏風